

大船駅西口整備計画（鎌倉市域での整備計画）の素案のあらまし

【計画の内容】

整備計画は、歩行者と車両を分離し、安全性と快適性を確保するための歩行者デッキの設置、また駅前に用地の確保ができる見込みとなったため、バス、タクシー、一般車などの乗降場の施設配置を行う内容のものです。

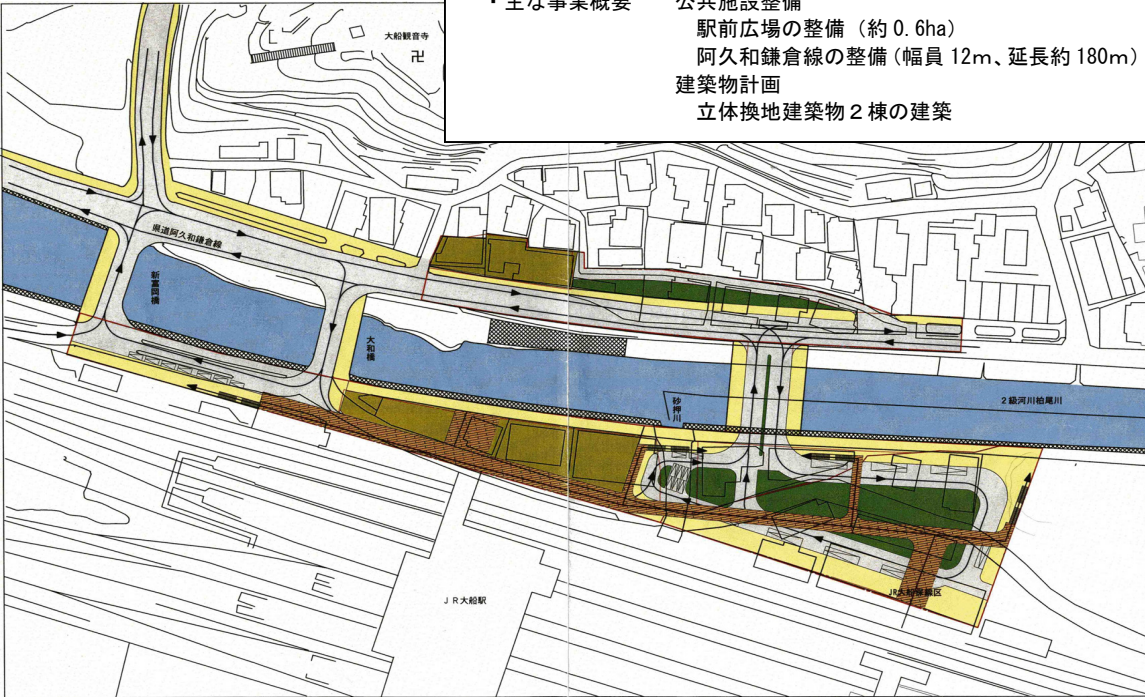
大船駅西口整備計画（鎌倉市域での整備計画）		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	整備計画策定	計画策定				
	乗降場施設等の整備		用地取得	整備		
	バス折り返し場の集約化（再整備）				整備	
	歩行者デッキ等の設置		詳細設計	整備		

目標スケジュール

【これまでの経過】

鎌倉市と横浜市による、両市域にまたがる駅前広場整備などを含む「横浜・鎌倉両市一体整備計画（案）」（注1）が社会経済状況の変化等から早期の実現が困難となりました。

注1 横浜・鎌倉両市一体整備計画（案）

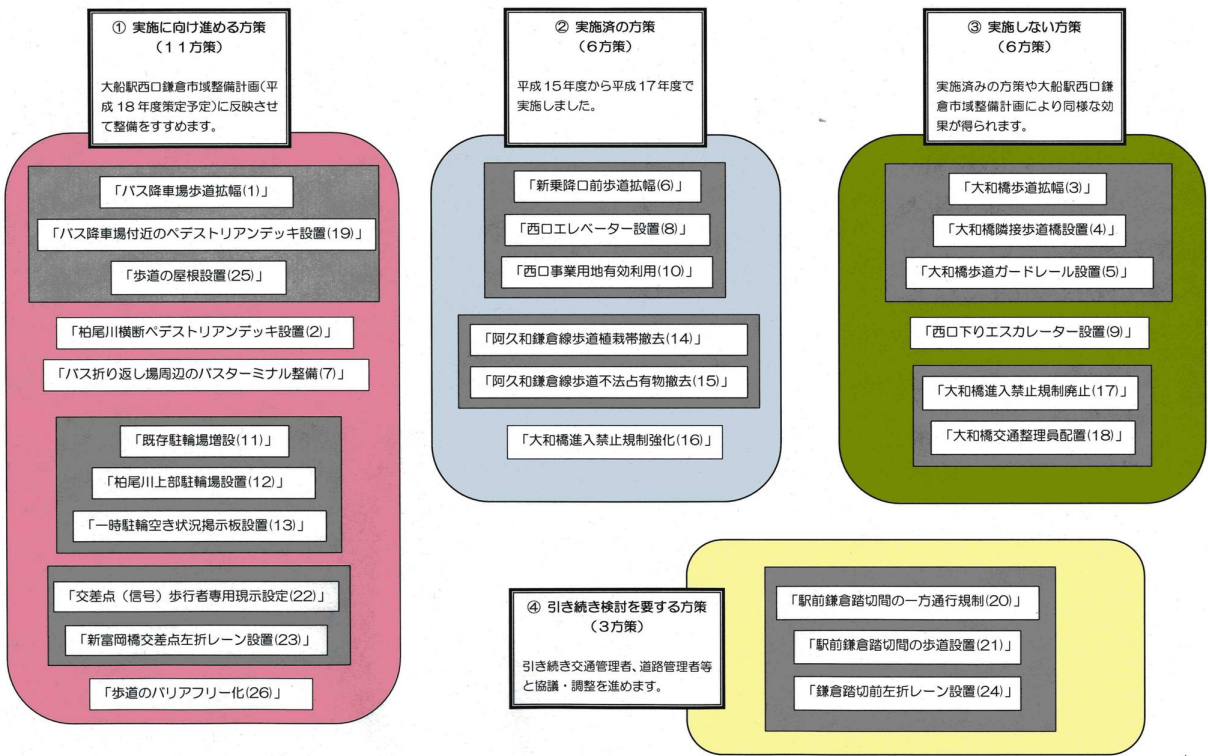


（事業計画案の概要）		平成10年1月策定
・地区面積	約1.4ha	
・事業手法	横浜市：街路事業（予定） 鎌倉市：沿道区画整理型街路事業（予定）	
・事業主体	横浜市、鎌倉市（予定）	
・主な事業概要	公共施設整備 駅前広場の整備（約0.6ha） 阿久和鎌倉線の整備（幅員12m、延長約180m） 建築物計画 立体換地建築物2棟の建築	

大船駅西口地区の課題等の解決のために、横浜・鎌倉両市にわたる一体的な駅前広場や歩行者デッキ等の整備を行うと共に県道阿久和鎌倉線の整備を行う計画です。

しかしながら、西口駅前の現状を改善することは緊急課題であり、地域住民と行政とが協働でこの課題に取り組むことを目的として、鎌倉市では「大船駅西口駅前整備協議会」を平成14年4月に設置しました。この協議会での検討を経て、平成15年3月に「安全で快適な大船駅前の都市基盤整備に関する26の短期的方策」（注2）が協議会から市長に提案されました。

注2 安全で快適な大船駅前の都市基盤整備に関する26の短期的方策



地域住民と行政、関係機関とが協働して安全で快適な大船駅西口駅前とする目的で検討を重ね、都市基盤に関する整備方策をまとめたものです。

鎌倉市では、この26の短期的方策について平成15年度から平成17年度までの3カ年で方向性の整理を行ないました。この間に6方策を実施し、最終的には11方策が実施に向け進める、6方策が実施しない、3方策が引き続き検討を要すると位置付けしました。なお、実施に向け進めるとした11の方策は、この整備計画に取り込んで実現を目指します。

【大船駅西口駅前の現状と問題点】P5

- ＊ 大和橋橋上では、栄光学園、清泉女学院などの生徒や、住友電工横浜製作所などに通勤する方で通学・通勤時には車道にはみ出すほど混雑が生じています。（写真①）
- ＊ 横浜方面へ向かうバス停がある「大船プラザ」前では、バスを利用する通勤者・通学者があふれ歩道上が混雑しています。また、車道でもラッシュ時にはバスが並んで待機することがあり、交通の阻害要因となっています。（写真②）
- ＊ 栄光坂に向かう観音様側の歩道の幅員が狭いため、駅へ向かう方と通学する生徒のすれ違いが困難で車道に出て歩く姿が見受けられます。（写真③）